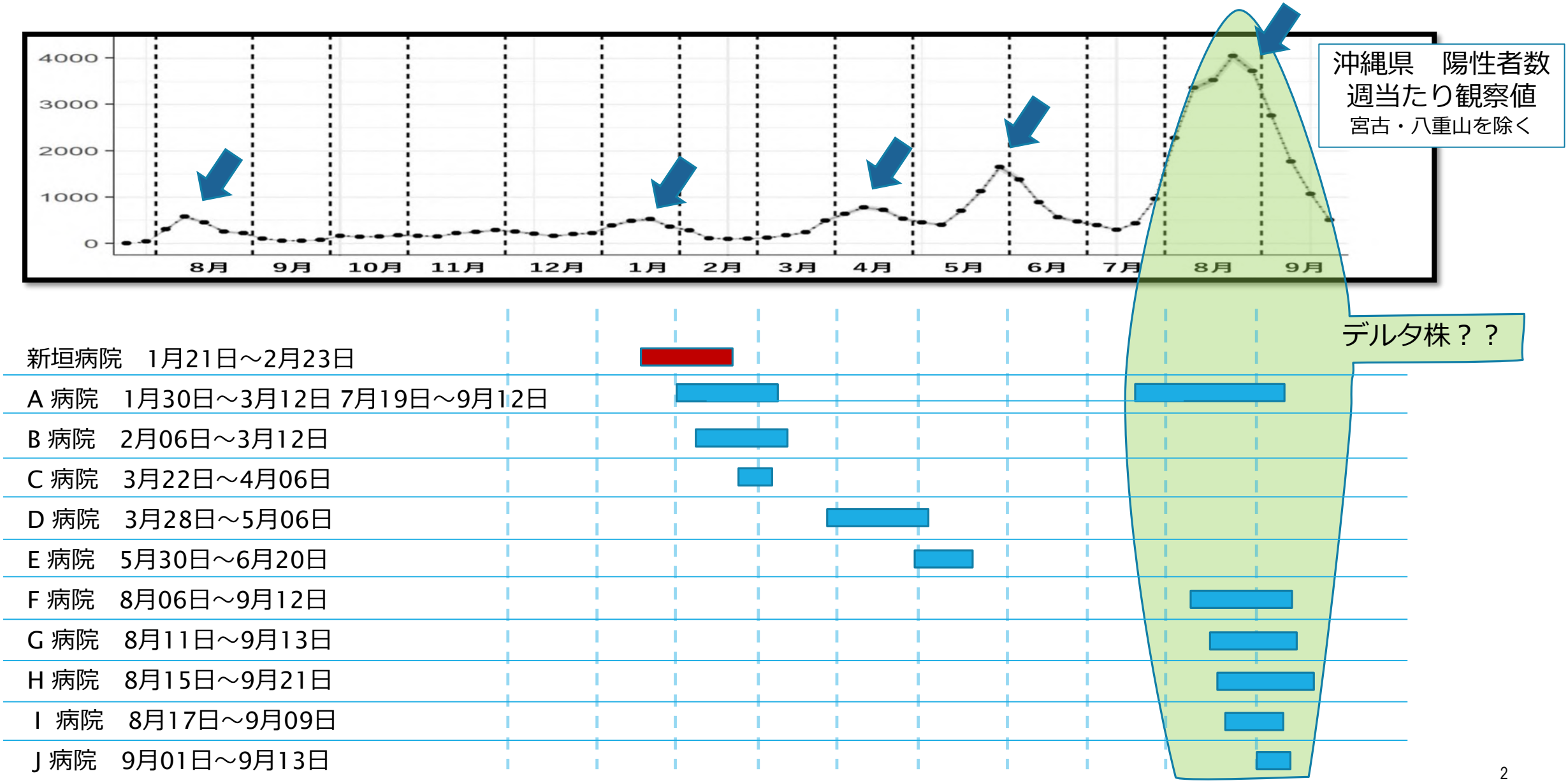
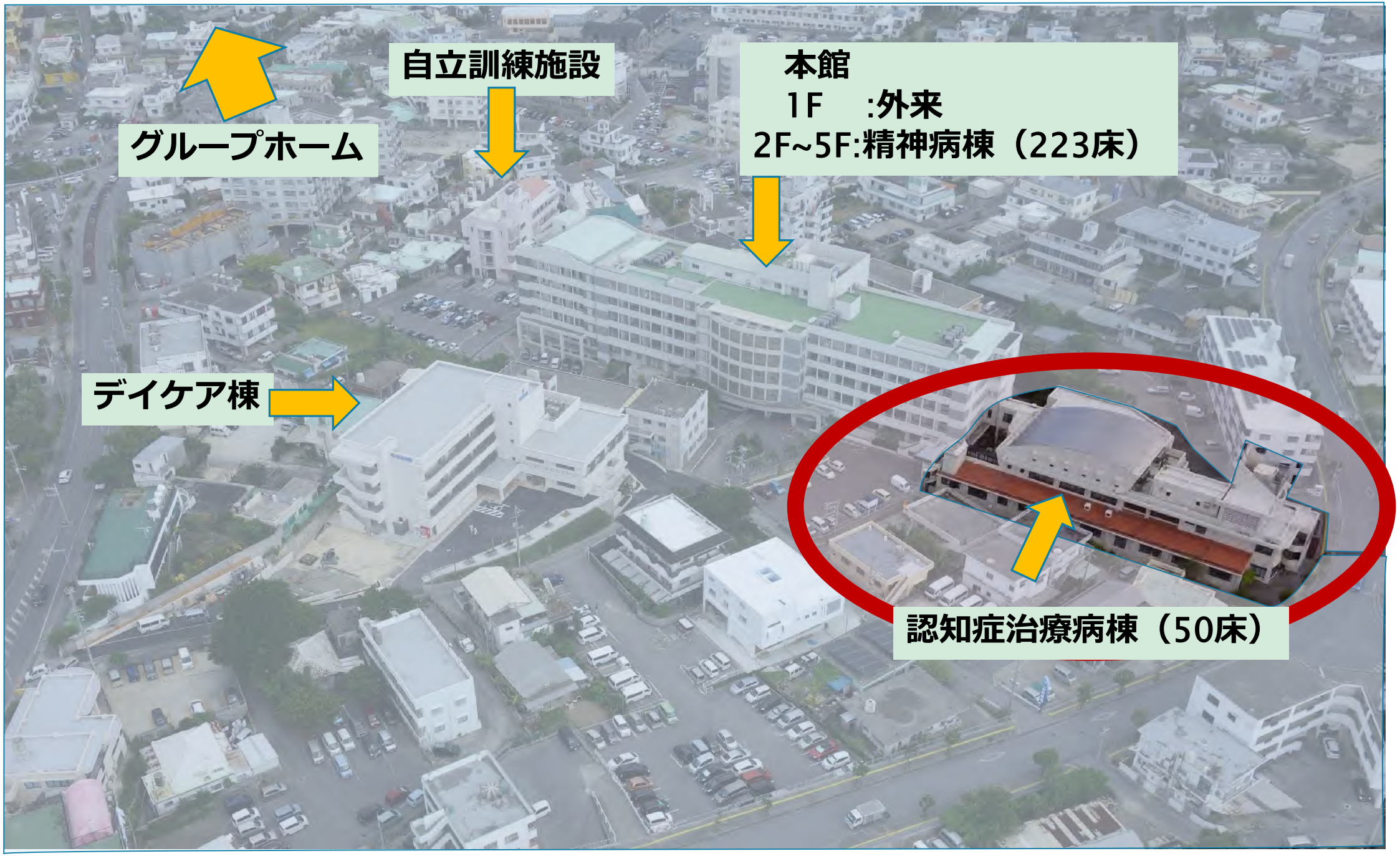
第３回第８次医療計画等に関する検討会
令和３年１０月１３日
資料5

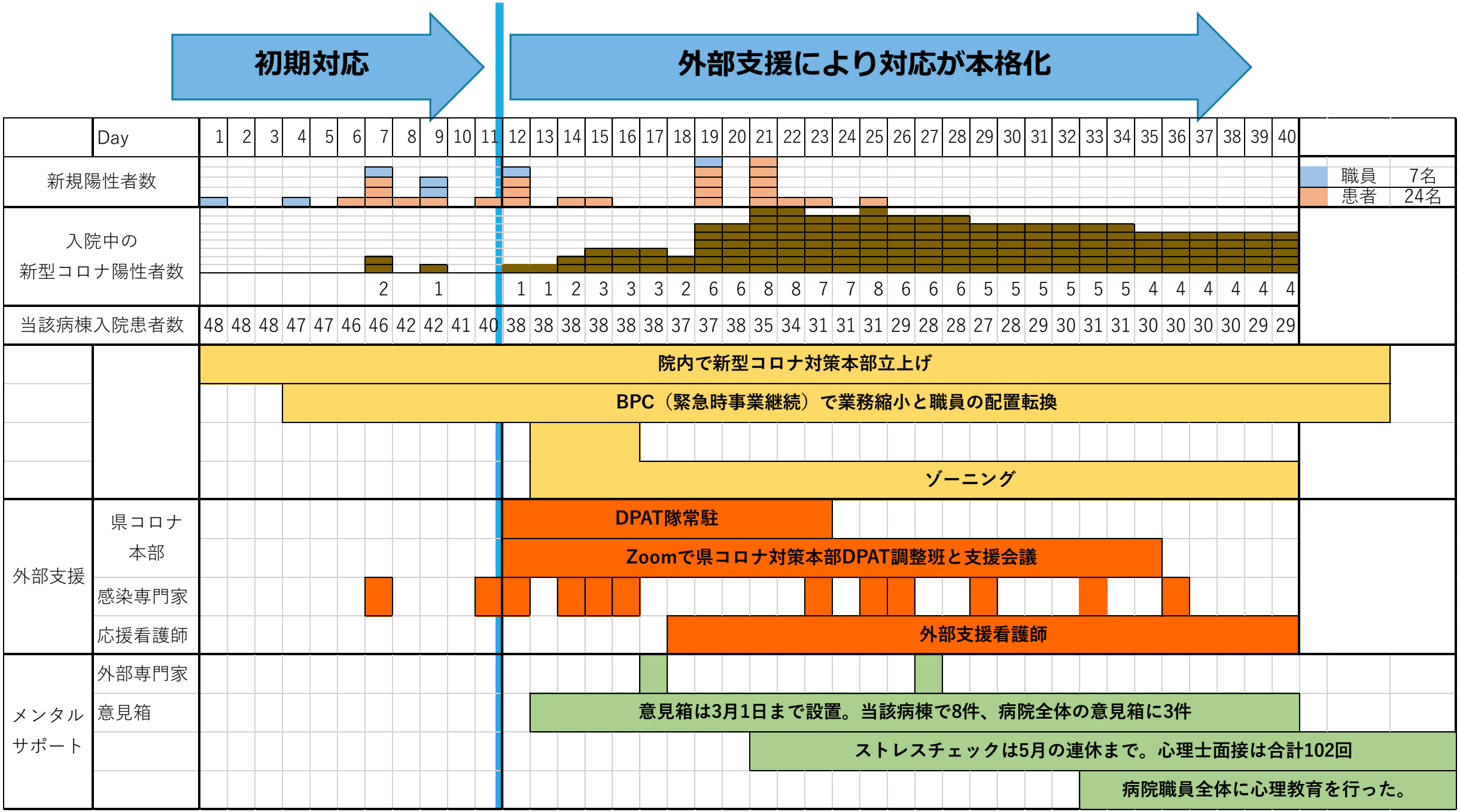
沖縄県にある単科精神科病院 新垣病院で発生したクラスターの報告

医療法人卯の会　新垣病院
理事長　新垣　元
令和3年10月13日

沖縄県内で療養者に複数感染者がでた精神科病院




グループホーム
自立訓練施設
本館
1F　:外来
2F~5F:精神病棟（223床）
デイケア棟
認知症治療病棟（50床）


初期対応
外部支援により対応が本格化
Day
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40
新規陽性者数
職員 7名
患者 24名
入院中の
新型コロナ陽性者数
2 1 1 1 2 3 3 3 2 6 6 8 8 7 7 8 6 6 6 5 5 5 5 5 5 4 4 4 4 4 4
当該病棟入院患者数
48 48 48 47 47 46 46 42 42 41 40 38 38 38 38 38 38 37 37 38 35 34 31 31 31 29 28 28 27 28 29 30 31 31 30 30 30 30 29 29
院内で新型コロナ対策本部立上げ
BPC（緊急時事業継続）で業務縮小と職員の配置転換
ゾーニング
外部支援
県コロナ
本部
DPAT隊常駐
Zoomで県コロナ対策本部DPAT調整班と支援会議
感染専門家
応援看護師
外部支援看護師
メンタル
サポート
外部専門家
意見箱
意見箱は3月1日まで設置。当該病棟で8件、病院全体の意見箱に3件
ストレスチェックは5月の連休まで。心理士面接は合計102回
病院職員全体に心理教育を行った。

認知症治療病棟で起きた事

当該病棟は寝たきりではない認知症患者が主

- ◆療養者は各病室から出せない
- ◆食事、排せつも、すべて病室内で、入浴はできずに清拭のみ。
- ◆精神科治療から感染症治療に変わり認知症症状は悪化。
- ◆集団でケアする体制が取れず、スタッフの増員が必要。
- ◆感染廃棄物の搬出や消毒などの環境整備のために別動隊が必要。
- ◆家庭内感染を恐れ自宅に帰れないスタッフが多数。
- ◆感染者は専門病院へ転院しゾーニングが可能となった。

地域での役割分担の内容・調整方法

◆令和2年秋に県立精神科病院に新型コロナ対応病床を５床確保。

◆精神科病院クラスターが発生すると５床では不足。（現在は14床）

◆精神科病院入院患者に陽性者が１名でも出た時、当該病院からDPAT派遣要請があれば、県庁のコロナ本部にはDPAT調整班を立ち上げ、当該病院にはDPAT隊を派遣する。

◆院内ステイの場合は、感染症専門家のサポートを入れる。調整は県コロナ対策本部・感染症対策班

◆中～重症患者は重点医療機関。入院調整は、県コロナ対策本部医療班

◆新型コロナ対応病床で感染リスクが低くなった患者は元病院に戻るが、対応困難な場合は一時的に他の精神科病院で入院を受ける。